

◆ 2024 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 荒川流域ネットワーク

27A-10

代表者：代表理事 鈴木 勝行

URL : <https://arakawa-ryuiki.net>

1. 活動が必要とされた状況

1950年代まで、入間川水系の各河川では、東京湾から遡上して来たアユを地曳網など使って捕り、その場で食べる行事が夏の風物詩として行われてきた。経済の高度成長期に水質悪化が進むと同時に、多くの取水堰などで洗堀が進み、東京湾から遡上して来るアユが激減した。2005年までその状態が続いていたが、秋ヶ瀬取水堰の魚道を遡上する稚アユの遡上数が2006年から急増。2008年は遡上数が約93万尾に達した。私たちの要望を受け、2009年から2021年まで県による魚道設置事業が行われ、遡上環境が改善された。水質も良くなったことで、行われなくなっていた地曳網漁を復活する可能性が出てきた。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

5月に、入間川菅間堰の魚道で遡上状況長を実施した（従事者5名）。7月に、都幾川長楽堰上流と入間川浅間堰下流で遡上調査した（従事者5名）。都幾川上流の玉川橋上流でアユの生息調査と3m程度の区間の水草の除去作業を行った（従事者8名）。10月16日に8月に増水のため実施できなかった高麗川での魚捕りイベントを延期して実施した（従事者27名・参加者39名）。計画していた越辺川での魚捕りイベントは増水のため実施できなかった。

3. 活動の成果

都幾川下流の調査では、遡上してきたと思われるアユは捕獲できなかった。二瀬橋下流でもやはり、アユは捕獲できなかったが、これは河川工事の影響と思われる。入間川の下流ではアユ1尾を捕獲できたが、天然遡上アユの遡上状況は不明であった。新玉川橋上流のアユの生息調査では、河川工事で発生したと思われる砂が川底を覆った影響で水草が大量発生して、採捕できた3尾のアユの成長は悪かった。都幾川の川底環境が悪化していることを確認した。地曳網漁ではリピーターの家族が多く、楽しみに待っていた子どもたちに体験してもらうことができた。

4. 今後に残された課題

入間川や都幾川、高麗川にはまだ遡上障害物になっている取水堰などが残されており、魚道設置が必要である。設置した魚道も遡上効果を高めるための補修も必要である。また入間川水系へのアユの遡上数が大幅に減少しているため、東京湾からの遡上数を増やすための活動も必要である。都幾川での魚獲りイベントの開催場所は河川環境の悪化もあり、今後検討の必要がある。



都幾川玉川橋での水草抜き取り作業（7月28日）



高麗川獅子岩橋での魚獲りイベントでの地曳網体験（10月16日）



刺網に掛かったアユを網から外す参加した親子（10月16日）